



医療法人 凌雲会

MEDICAL CORPORATION RYOUN GROUP

# 課題整理総括表を活用しよう！



## 昴指定居宅介護支援事業所

○納田 正敏    光田 奈津子    佐藤 緑  
大和 恭子    三好 みゆき    藤田 耕資    宮繁 知華子

(1) 医療法人 凌雲会 稲次整形外科病院

(2) 医療法人 凌雲会 介護老人保健施設 昴

# 1. はじめに

ケアマネジャーの役割とは？



介護保険にかかわる人々の橋渡し役！



どのような支援が必要か、アセスメント！

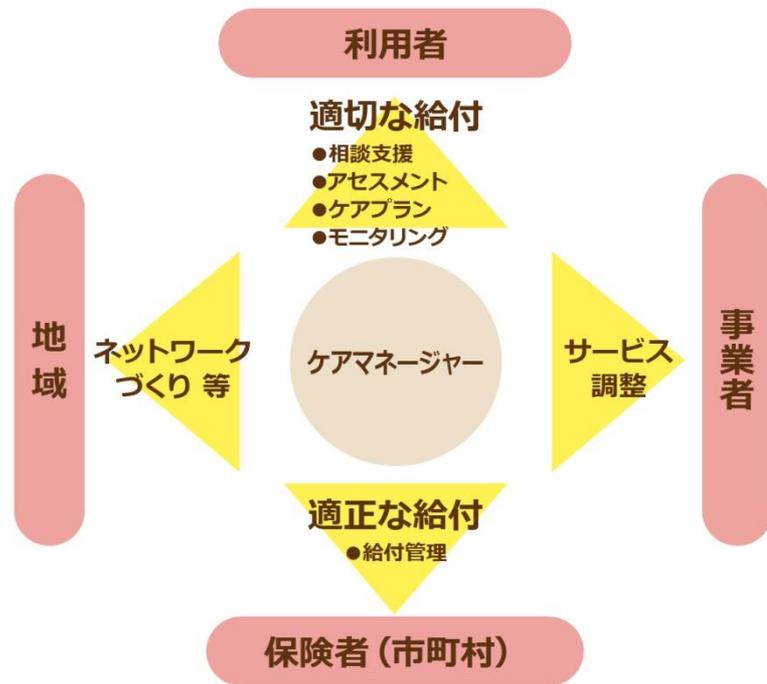


何をして欲しいかだけでなく、自立の為に必要な事！



～課題を分析することが大切！～

## ケアマネジャーの機能について



## 2. 現状と課題

# ケアマネジメントプロセス

介護保険制度の複雑化  
選べるサービスや関わる職種も多種多様に！



必要な情報は？適切な支援は？  
アセスメントがますます重要に！



アセスメントが不十分だったら・・・  
本当に必要な支援が判断・提供できない！

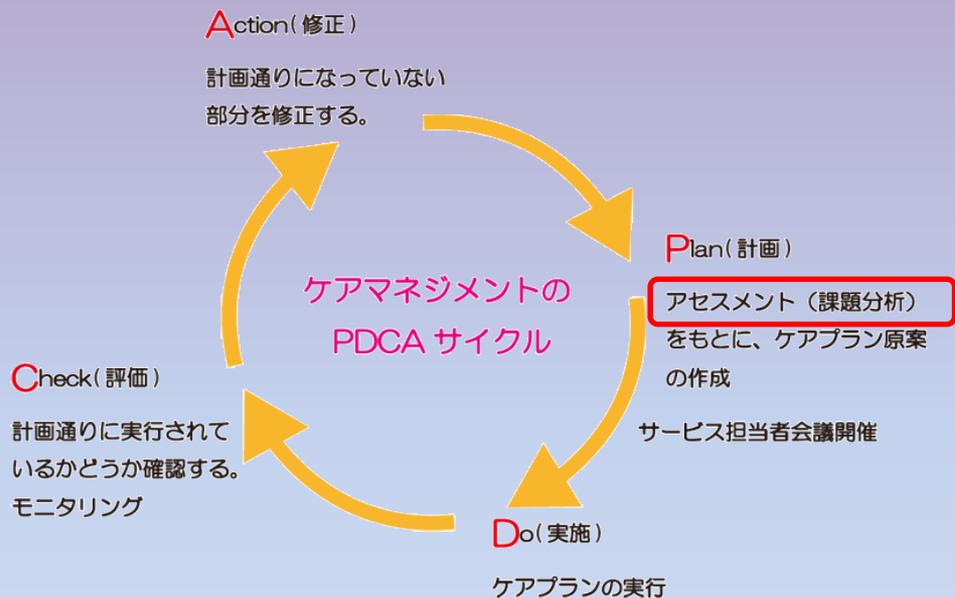


課題は何か？これからどうしていきたいか？  
解決方法を関係者で検討し発見していく作業！



### 3. 取り組み

#### 課題整理総括表を活用してみる！（厚労省推奨）



課題総括整理表を用いて改善すべき問題点を探し出す！

誰が見てもその利用者の状態像が把握しやすく、支援すべきポイントが分かりやすい！

サービス担当者会議などで導き出された課題を、ケアプランに反映できる！

アセスメントは、ケアマネジメントの導入部分で最も重要な作業！ただ把握するのではなく『課題』を『分析』することが重要ポイント！



### 3. 取り組み【具体的事例に活用】

各介護支援専門員の担当者より利用者を1名程度抽出し、ケアマネジメントに活用した結果を評価する。

①

利用者名 A氏 課題整理総括表

自立した日常生活の阻害要因 (心身の状態、環境等)	① 右片麻痺出現し、動作困難 ④ 他者との交流、外出機会の減少	② 移動に車椅子必要 ③ 自宅内の環境設定が不十分	④ 介護力不足	利用者及び家族の生活に対する意向	生活全般の解決すべき課題 (ニーズ)【案】	※0
移動	室内移動 自立 見守り 一部介助 全介助	D②④ 改善 維持 悪化	右片麻痺にて車椅子を使用し、自走可能。 車椅子介助で移動。	自身のことはできるだけ自分でしながら生活が送れるようになりたい。	体を動かす機会を作りたい。	1
食事	食事内容 自立 見守り 一部介助 全介助	D①③ 改善 維持 悪化	スプーンや箸を使えば手で食事可能。 右片麻痺や車椅子使用のために調理困難。 トイレまでの移動や移乗動作が困難。	身の周りのことは少しずつでも ていこうという考えである。孫 の息子、孫と3人暮らしであるが 孫の息子はパーキンソン病 あり。孫は仕事があるために介護 力が不足し、食事などの用意が 難しい。	調理が難しく、食事の用意をお願いしたい。	2
排泄	排便・排便 自立 見守り 一部介助 全介助	D③④ 改善 維持 悪化	車椅子を使用すれば洗面所まで移動可能。 車椅子を使用すれば洗面所まで移動可能。 手拭し、水を用意すれば可能。	玄関に段差があり外出が困難と なっている。またトイレに手すり なく、一人での排泄ができない。 介護者不在や浴槽の状態から自 宅での入浴が困難。転倒や転落の 危険があるために自宅での環境を 整える必要がある。	転倒や転落を予防できるように自 宅の環境を整えてほしい。	4
口腔	口腔衛生 自立 見守り 一部介助 全介助	D①③ 改善 維持 悪化	介護者による洗身や移動など介助が必要。 身動が動作あるが介護必要。	家族も仕事があり、外出させる のが難しく、車椅子移動のため 一人での外出も困難であり、居 宅にこもりがちになり、他者との 交流が難しい。	他者と交流する機会を作り、生活 意欲を向上していきたい。	5
入浴	入浴 自立 見守り 一部介助 全介助	D①③ 改善 維持 悪化	移動の介助が必要。 身の周りのことだけであれば可能。			
更衣	更衣 自立 見守り 一部介助 全介助	D①③ 改善 維持 悪化				
掃除	掃除 自立 見守り 一部介助 全介助	D①③ 改善 維持 悪化				
洗濯	洗濯 自立 見守り 一部介助 全介助	D①③ 改善 維持 悪化				
整理・物品の管理	整理・物品の管理 自立 見守り 一部介助 全介助	D①③ 改善 維持 悪化				
金銭管理	金銭管理 自立 見守り 一部介助 全介助	D①④ 改善 維持 悪化				
買物	買物 自立 見守り 一部介助 全介助	D①④ 改善 維持 悪化				
コミュニケーション能力	コミュニケーション能力 支援なし 支援あり	改善 維持 悪化				
認知	認知 支援なし 支援あり	改善 維持 悪化				
社会との関わり	社会との関わり 支援なし 支援あり	改善 維持 悪化				
褥瘡・皮膚の問題	褥瘡・皮膚の問題 支援なし 支援あり	改善 維持 悪化				
行動・心理症状(BPSD)	行動・心理症状(BPSD) 支援なし 支援あり	改善 維持 悪化				
介護力(家族関係含む)	介護力(家族関係含む) 支援なし 支援あり	D②④ 改善 維持 悪化				
居住環境	居住環境 支援なし 支援あり	D②④ 改善 維持 悪化				

②

③

④

⑤

⑥

①: 阻害要因

②: ADL

③: 改善可能性

④: CMコメント

⑤: 見通し

⑥: 意向・ニーズ



## 課題整理総括表の内容(一部抜粋)

自立した日常生活の 阻害要因 (心身の状態、環境等)		① 右片麻痺出現し、動作困難	② 移動に車椅子必要	③ 介護力不足						
		④ 他者との交流、外出機会の減少	⑤ 自宅内の環境設定が不十分	⑥						
状況の事実 ※1		現在 ※2		要因※3	改善/維持の可能性※4	備考(状況・支援内容等)				
移動	室内移動	自立	見守り	一部介助	全介助	①②⑤	改善	維持	悪化	右片麻痺にて車椅子を使用し、自走可能。 車椅子全介助で移動。
	屋外移動	自立	見守り	一部介助	全介助	①②	改善	維持	悪化	
食事	食事内容	支障なし		支障あり		①③	改善	維持	悪化	セッティングすれば左手で食事可能。 右片麻痺や車椅子使用のために調理困難。 トイレまでの移動や移乗動作が困難。
	食事摂取	自立	見守り	一部介助	全介助	①③	改善	維持	悪化	
	調理	自立	見守り	一部介助	全介助	①③	改善	維持	悪化	
排泄	排尿・排便	支障なし		支障あり		①③⑤	改善	維持	悪化	車椅子を使用すれば洗面所まで移動可能。 車椅子を使用すれば洗面所まで移動可能。
	排泄動作	自立	見守り	一部介助	全介助	①③⑤	改善	維持	悪化	
口腔	口腔衛生	支障なし		支障あり		①③	改善	維持	悪化	車椅子を使用すれば洗面所まで移動可能。 車椅子を使用すれば洗面所まで移動可能。
	口腔ケア	自立	見守り	一部介助	全介助	①③	改善	維持	悪化	

① 日常生活の阻害要因を抽出

② 利用者のADL状態(現状)

③ 要因(①と番号でリンク)

④ 改善の可能性(CMが判断)

⑤ 現在の状況・支援内容



利用者及び家族の  
生活に対する意向

自分のことはできるだけ自分でしながら生活が送れるようになりたい。

見 通 し ※5	生活全般の解決すべき課題 (ニーズ)【案】	※6
入院中にADL向上しているが右片麻痺の改善は難しい状態。退院後は外出が困難となり、居室にこもることでADLの低下が懸念。身体を動かす機会を作る必要がある。	体を動かす機会を作りたい。	1
身の周りのことは少しずつでもしていこうという考えである。義理の息子、孫と3人暮らしであるが、義理の息子はパーキンソン病であり、孫は仕事があるために介護力が不足し、食事などの用意が難しい。	調理が難しく、食事の用意をお願いしたい。	2
	安全に入浴ができるようにしてほしい。	3



⑥ 意向・希望(どうなりたいか)

⑦ 今後の見通しについて

⑧ 解決すべき課題・ニーズ



## 4. 考察①【利点】

### ①総括表の作成

- アセスメントした心身の状態や環境などを改めて見直せる。
- 課題や阻害要因を見つけやすく、今後の見通しが立てやすい。
- 頭の整理ができ、新たな気づきがあったり、弱い部分を見つけて補えた。
- 一目で問題点が把握でき、誰が見ても分かりやすい。
- 阻害因子→ADL→要因→改善可能性と順に考えることで、なぜ介助が必要になったのか、内容について整理して把握しやすい。

### ②サービス担当者会議

- 利用者の状態をすぐに事業所へ伝達でき、課題に対してどう支援して欲しいか説明しやすい。
- 本人や家族の意向を読み取れており、記載しやすい。
- 他事業所の方とも問題点を共有しやすかった。
- サービス事業所だけが知りうるような詳しい情報を共有できる。
- 情報共有や意見交換によって、同じ方向を向いたサービスの提供に繋がった。

### ③ケアプラン作成

- ニーズや課題が掴みやすく、作成しやすい。
- ニーズの漏れを減らす事が出来る。



#### ④利用者への説明

- 課題と支援内容を一体的に説明しやすくなった。
- 必要な事や優先順位をつけ、分り易く説明出来た。
- 本人に対し課題の改善方法を分りやすく伝え、意欲を高める事が出来る。

#### ⑤サービス提供開始

- 改善点や不足点を把握しやすくなった。
- モニタリングがしやすくなった。
- 課題と目標設定、評価が上手く繋がる。
- サービス利用の必要性、目的が明確になっており、事業所との連携が取りやすい。
- 本人が思っていたよりも希望に沿ったサービス提供が行え、満足度が上がった。

#### ☆良かったポイント☆

『課題整理がしやすく、ケアプラン作成が容易になる』

『障害要因と支援を結びつけやすい』

『情報共有を図りやすい』

『説明する時に便利』

『評価や見直しがやりやすい』

『利用者の満足度が高まる』



## 4. 考察②【欠点】

### ①総括表の作成

- 不慣れな為、作成に時間がかかってしまった。
- 目標達成後はその課題を省くはずが、プランとの整合性で上手くいかなかった
- 急な支援を要する場合、準備に時間がかかる為導入しにくい。

### ②サービス担当者会議

- 詳細な情報が無く、別に詳しい資料が必要。
- 性格や生活習慣が関係した事例で、支援の難しさに行き詰ってしまった。
- 課題に対し本人と家族の意見が対立した場合、意見をまとめる事が難しい。

### ③ケアプラン作成

- 課題ばかりに目が向いて、本人の強みを生かせなかった。
- 後からサービスを追加してと言われた場合、生かせない。



#### ④利用者への説明

- 本人の性格に起因する阻害要因は、本人に改善の意思なく話し合いの余地が無かった。
- 本人に悪化の可能性がある事の説明がしづらい。

#### ⑤サービス提供開始

- 再度の入力に時間と手間がかかる。
- 必要性を確認し納得してサービス提供したはずが、本人から不満を言われた。

#### ★悪かったポイント★

- 『作成に時間と手間がかかり、急いでいる時に間に合わない』
- 『性格に起因する阻害要因は、活用方法に当てはまりにくい』
- 『課題に目が行ってしまい、強みを生かす支援に結びつけにくい』
- 『サービスの追加・変更などに速やかに対応することが困難』



## 5. まとめ

# 課題整理総括表の活用で得られたこと

Step①

- ・ 総括表で課題や阻害因子を簡潔に整理

Step②

- ・ 担当者会議で関係者の課題共有が容易化
- ・ 課題に対し必要かつ適切な支援を選択できる

Step③

- ・ 本人の意向に沿ったケアプランの作成
- ・ 課題解決のための、適切なサービス提供

Step④

- ・ 課題の解決or未解決を判別しやすい
- ・ モニタリングで評価し見直しが容易

## 質の高い支援提供・業務適正化



**支援にゴールはありません！**

**課題の解決はトライ＆エラーを重ねながら進んでいきます**

**利用者の課題把握は、ケアマネジメントの根幹です**

**何が必要か、何を求められているのかを深く理解して**

**今後の利用者の支援に活かしていきたいです！！**



ご清聴

ありがとうございました



MEDICAL  
CORPORATION  
RYOUN GROUP

医療法人 凌雲会

老人保健施設 昂